

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 紀南高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい 児童生徒像	一人ひとりが自己肯定感をもち、自他ともに認め合える人間関係のなかで、地域に貢献できる力を育む。(グラデュエーション・ポリシー) ・一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。 ・自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。 ・地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。
	ありたい 教職員像	生徒一人ひとりの自己肯定感を高めるため、育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合える教職員。 ・あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己肯定感・有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。 ・育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い続けることができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>【生徒】 学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】 生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】 地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<p>◎学校運営協議会は学校運営の主体として連携する相手との総括的な調整を行う。</p> <p>【同窓会】 母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】 卒業生が生き生きと生活し、成長する姿が感じられる高校。</p> <p>【地域の関係諸機関】 さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【PTA】 生徒支援のためのPTA活動活性化。</p>
	連携する相手への要望・期待	<p>◎学校運営協議会は連携する相手に対し、教育活動への積極的な参画を促す。</p> <p>【同窓会】 生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】 生徒に関する情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】 それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【PTA】 保護者との架け橋。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動をはじめ、様々な活動が地元のメディアに多く取り上げられていたので、今後もインターンシップの充実等中学生に選ばれる学校の魅力を発信する必要がある。</li> <li>・学力に課題がある生徒や特別支援が必要な生徒の学びをサポートし、進路を保障するため、学習支援のボランティア等を効率的に活用する必要がある。</li> <li>・地域で子どもたちを育てる環境が整っている強みを活かして、コミュニティ・スクールとして何ができるかということを具体的に提案する必要がある。</li> </ul>
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されていく中でも、効果的な情報発信が求められる。1人1台端末を有効活用するため、教員のスキルアップが求められる。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動では、熊野エリア道の駅協議会との連携や地元市町の協力を得た防災活動等、生徒主体の活動を活性化させ、多くの活動を発信していく。</li> <li>・今後、働き方改革を進めるため、業務内容の改善をすると共に、スクールサポートスタッフや教育ボランティア等の協力により、ワークライフバランスの整った学校運営をしていく必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>地域と協働した教育活動を行い、キャリア教育を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。(カリキュラム・ポリシー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進める。</li> <li>・生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し、行動できるように、キャリア教育を充実させる。</li> <li>・生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。</li> </ul>
学校運営等	<p>教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指して、地域とともにより信頼される学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進める。</li> <li>・積極的に研修を行い、教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努める。</li> <li>・質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指す。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した学校づくりを進めます。」に資する行動	<p>(1) カリキュラム・マネジメントを実施し、地域の実状や要望、生徒の実態等を踏まえた、教育課程の研究および編成を行う。 【教務】</p> <p>【活動指標: 令和6年度入学生教育課程を編成】</p>	<p>(1) 新高等学校ワーキング会議での議論を踏まえて、令和6年度及び新高校での実施となる令和7年度教育課程を編成した。【活動指標】<b>達成</b></p>	◎
	<p>(2) 各家庭や地域と連携し、生徒の基本的な生活習慣等の確立に向けた様々な支援を行い、きめ細やかな進路指導を行う。【学年】</p> <p>【活動指標: 1年次は家庭訪問年1回以上、全学年三者面談年1回以上、個別面談年3回以上実施】</p>	<p>(2) 1年次は家庭訪問または学校への来校で保護者と年度初めに連携を行った。三者面談は、全学年1回実施。個別面談は、3年次で3回以上、2年次は3回、1年次も3回実施した。 【活動指標】<b>達成</b></p>	※
	<p>(3) 各学年と他分掌との協働や、地域の専門機関等との連携を深めながら、充実した学校生活を送れるように、学校全体で個に応じた支援を行う。【保健】</p>	<p>(3) ケースに応じ、学年・分掌と連携し、支援を行ってきた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、発達障がい支援員とも連携し、充実した学校生活を送れるよう支援を行った。</p>	※
	<p>(4) 総合的な探究の時間等を活用し地域理解の機会や職業理解の機会を設け、進路意識の向上につなげる。【進路】</p> <p>【活動指標: 事後アンケートを実施、結果を分析】</p>	<p>(4) 進路指導部と学年団で連携して、1年次から計画的に進路ガイダンスや体験学習等のキャリア教育を実施した。1年次では取組に参加した生徒のうち約80%が前向きな回答であり、進路意識向上につながったといえる。 【活動指標】<b>達成</b></p>	※

<p>②「生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し行動できるように、キャリア教育を充実させます。」に資する行動</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びや、授業のユニバーサルデザイン化、ICT活用の推進に関する教員のスキルアップを支援する。<b>【教務】</b> <b>【活動指標】</b>研修会や情報発信、検討会等を合計 5 回以上、1 年次生を対象としたアンケート結果</p> <p>(2) 進路資料室や総合掲示板を活用することで、情報収集能力を育成するとともに、自らのキャリアについて主体的に意思決定し行動する力を育成する。<b>【進路】</b> <b>【活動指標】</b>年度末に実施するアンケート結果を実施、結果を分析</p> <p>(3) 地域の保健所や消防署と協力し、思春期教育講演会やAED講習会を行う。<b>【保健】</b> <b>【活動指標】</b>講演会各学年年 1 回、講習会 1 回実施</p>	<p>(1) 授業公開週間 2 回、木本高校との授業力交流会 1 回及び拡大研修会 1 回を実施した。また 1 年次生に授業を振り返るアンケートを実施し、「地域や社会への貢献」等に課題があることを踏まえた検討会 1 回を実施した。 <b>【活動指標】</b>達成</p> <p>(2) 3 年次に自己の進路決定を振り返るアンケートを実施し、その結果から、進路資料室への来室、進路指導部への相談が多いことはわかった。しかし、主体的に意思決定し行動する力がついたとは言い難い。 <b>【活動指標】</b>未達成</p> <p>(3) 地域の保健師等による思春期講演会は各学年 1 回、消防署員による A E D 講習会は 1 年次を対象に 1 回実施した。 <b>【活動指標】</b>達成</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>
<p>③「生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進めます」に資する活動</p>	<p>(1) 様々な課題をもつ生徒に対して、学校全体で効果的な指導・支援が行えるよう、教員間で積極的に情報を共有するよう努める。<b>【生徒指導】</b> <b>【活動指標】</b>担任・副担任との情報共有、週 1 回実施</p> <p>(2) 生徒が、いじめや虐待に関する相談をしやすい体制を作る。アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。<b>【生徒指導】</b> <b>【活動指標】</b>いじめや学校生活に関するアンケート、学期に 1 回以上実施</p> <p>(3) 人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。<b>【人権】</b> <b>【活動指標】</b>人権学習各学期 1 回以上実施、人権通信各学期 1 回発行</p>	<p>(1) 朝の打合せ後に担任との情報共有をほぼ毎日実施した。職員会議では生徒情報共有の時間を設けて、全ての教員が生徒支援を行えるようにした。 <b>【活動指標】</b>達成</p> <p>(2) Hyper - QU (5 月・11 月)、いじめアンケート (8 月)、生活アンケート (6 月・1 月) 計 5 回実施した。2 学期初めには保護者へ案内を配付し、情報提供や相談先を周知し、問題の未然防止に努めた。 <b>【活動指標】</b>達成</p> <p>(3) 各学期 1 回以上人権学習を実施し、人権通信を発行した。 <b>【活動指標】</b>達成</p>	<p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>

改善課題

- ・ 支援が必要な生徒が増加傾向にあるため、校内外での連携を強化し、学習面や生活面、コミュニケーション等について、多角的に支援をし、安心安全な環境を提供する必要がある。
- ・ 生徒の情報収集能力をはじめ、自らのキャリアについて主体的に意思決定する力や行動力を育成するため、3 年間を見通して、系統的な指導計画を立てる必要がある。
- ・ ICT 活用や授業のユニバーサルデザイン化の推進、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、観点別学習状況の評価の実施について、教職員の更なるスキルアップが必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
①「コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進めます。」に資する活動	(1) SNSを活用したり、中学校での学校紹介を工夫したりして、本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子を発信する。【総務】 【活動指標】年間 40 回以上の情報発信、学校紹介動画1本の作成	(1) 本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子について、年間 75 回(2月14日現在)のブログ発信、学校紹介パンフレット及びPR動画を作成し、ホームページにアップした。 【活動指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span>	※
	(2) 関係機関と連携し、交通安全や防犯などに関わる啓発活動やボランティア活動、他校との交流会等に積極的に参加する。【生徒指導】 【活動指標】年 3 回以上実施	(2) 紀宝警察署と連携した防犯ボランティア活動に 2 回参加した。地域の子供たちを対象とした読み聞かせボランティアに計 6 回参加した。 【活動指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span>	※
	(3)「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」などの会議において、本校の人権学習を公開し、その内容について交流、協議を実施する。【人権】	(3)「人権感覚あふれる学校づくり」事業と同時に「紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会」を開催し、校外から 45 名の参加者があり、本校以外の人権学習についても事後協議で共有することができた。	◎
②「積極的に研修を行い、教職員の資質向上に努めます。」に資する活動	(1) 学年団とともに進路指導業務を行い、情報共有を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を向上する。【進路】 【活動指標:進路指導会議や検討会を各学年と年2回以上実施】	(1) 3 年次とは 2 回以上実施、1, 2 年次とは 1 回実施した。 【活動指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 年次達成</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1, 2 年次未達成</span>	※
	(2) 特別支援教育に関する研修会を行う。 【保健】 【活動指標:年 2 回実施】	(2) 年 2 回の研修会を実施した。特別支援の必要な生徒に対する支援について、障がい者支援施設から講師を迎え、教員の対応についてもアドバイスをいただいた。 【活動指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span>	◎
	(3) 教職員への人権啓発を促進する。また担当者会議を計画的かつ系統的に行う。【人権】 【活動指標】研修会年 2 回以上、人権教育担当者会議年 6 回以上実施	(3) 命をテーマにした人権研修会等年 2 回の研修会、年 6 回の人権教育担当者会議を実施した。 【活動指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span>	※
③「質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバラ	(1) 次世代の育成に必要な指導体制を確立するため、総務・教務部の業務の大胆な見直しを推進し、学校規模およびスタッフ数に応じた業務の適正化を図る。【総務・教務】 【成果指標】定時退校日の 18 時完全退校	(1) 重複する業務の一本化やコミュニティ通信「紀南の風」の発行を外部発注する等の業務削減を行った結果、100%の達成率となった。 【成果指標】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span>	※

<p>ンスのとれた組織を目指します。」に資する活動</p>	<p>の達成率 80%以上。</p> <p>(2)きめ細やかな生徒支援の実行に向け、教育相談・特別支援担当と連携し、生徒のサポートの一助とする。【保健】</p> <p>(3)教職員が働きやすい環境づくりの考え方を踏まえ、以下の成果指標・活動指標を目標とし、学校における働き方改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上</li> <li>・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100%</li> <li>・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 95%以上</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外在校等時間が年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人</li> <li>・時間外在校等時間が月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人</li> <li>・1 人当たりの月平均時間外労働時間 30 時間以下</li> <li>・1 人当たりの年間休暇取得日数 20 日</li> </ul>	<p>(2)支援を必要とする生徒と年 2 回面談を実施した。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの情報共有を密に行い、生徒のサポートに繋げた。</p> <p>(3)本校教職員のストレスチェックの指標からは、働きやすい環境であることが伺えるが、分掌業務や部活動指導等一部教員の過重労働は課題が残った。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校率 94.7% <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span></li> <li>(840 日：帰宅可 796 日・不可 44 日)</li> <li>・部活動休養率 100% <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span></li> <li>・会議終了率 64.0% <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">未達成</span></li> <li>(25 回・終了可 16 回・不可 9 回)</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・360 時間超え労働者 3 人 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">未達成</span></li> <li>・45 時間超えのべ人数 15 人 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">未達成</span></li> <li>・月平均時間外労働 23 時間 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">達成</span></li> <li>・年間休暇取得日数 17 日 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">未達成</span></li> </ul>	<p>※</p> <p>◎</p>
-------------------------------	--	--	-------------------

### 改善課題

- ・生徒の抱える課題や問題行動に適切に対応するため、これまで以上に専門機関や外部機関との連携をとり、解決に繋げていく必要がある。
- ・多様化する生徒の進路保障のため、学校生活や学習面等で保護者との継続した情報共有や連携が必要である。
- ・生徒が必要とする支援は多様化・複雑化している。“生徒ファースト”の視点で、外部と連携したり、教員への研修を実施したりして心身の負担とならないような支援体制を確立する必要がある。
- ・令和 7 年度から新高等学校となるが、紀南校舎の生徒募集においても、ホームページ等で情報発信をし、コミュニティ・スクールの理念を活かした魅力ある学校紹介をする必要がある。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労体験の強みを活かし、人材不足に悩む地元の事業所とタイアップして、就職先の開拓をして高校卒業後の進路保障を進めていくべきである。その特色をアピールすることが中学生に選ばれる学校の魅力となっていく。</li> <li>・今年度は支援が必要な生徒を対象にした短期インターンシップを実施し、次年度からは通級による指導が始まる。すべての生徒の進路を保障するため、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく必要がある。</li> <li>・来年度から熊野青藍高校が開校するため、紀南地域で団結して子どもたちを育てる環境を整える必要がある。本校のコミュニティ・スクールが立ち上がった時の原点に立ち返り、この地域ならではの取組を進めるべきである。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく。</li><li>・観点別評価を活かし、生徒の個別の課題に応じた学習支援を進めていく。また1人1台端末を有効活用するために、研修等を通して教員のスキルアップを進める。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・防災・減災活動では地元の自治体と協力して一定の成果を収めた。今後も生徒主体の取組を活性化させ、全校生徒が様々な活動に取り組めるよう支援し、発信していく。</li><li>・多様化する生徒の課題に応えるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、外部機関との協力を積極的に進める。</li><li>・今後も働き方改革を進めるため、業務内容の改善を継続すると共に、スクールサポートスタッフ等の協力により、ワークライフバランスの整った学校運営をしていく。</li></ul>